

令和4年度第6回 感染症発生動向調査部会

令和4年9月21日

月番：大西 秀典

1 前月の感染症発生動向について（2022年第31週～34週・8月）

<全数把握対象疾患>

- ・ 結核は毎週報告あり（本年累計の対前年同期比 103.8%）、発症者の中心は高齢者ではあるものの、20歳代で3例の報告あり。
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症が8例報告あり。5例が0157で、うち3例が第31週報告されている。
- ・ レジオネラ症が5例報告あり。
- ・ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症が第33週に2例報告あり。
- ・ E型肝炎、デング熱、アメーバ赤痢が各1例ずつ報告あり。
- ・ 梅毒は18例報告あり（本年累計の対前年同期比 156.3%）。うち15例が早期顕症で（本年累計の対前年同期比 181.8%）、男性6例、女性9例であった。また、先天梅毒1例の報告あり。

<定点把握対象疾患>

- ・ RSウイルス感染症は減少傾向であるが、少し遅れてピークを迎えた中濃圏域では第34週も定点あたり3.4の報告あり。
- ・ 手足口病が394例報告され、前月比は486.4%、対前年同期比3016.5%と増加している。
- ・ ヘルパンギーナは、対前年同期比25.8%であるが、前月比217.6%であり、8月最終週（第34週）に最も報告が多かった。
- ・ 性感染症定点疾患は、いずれも前年、前々年とほぼ同様の発生状況である。

2 検討すべき課題

<保健環境研究所から>

- ・ 梅毒（特に早期顕症）における背景要因、増加について（継続）

3 情報提供すべき事項

- ・ インフルエンザに対する備えについて
- ・ 話題となった感染症のその後について（「小児の原因不明の急性肝炎」「サル痘」）

4 その他（感染症対策推進課から）

- ・ 今冬のインフルエンザワクチンの接種対象者への呼びかけについて
- ・ 季節性インフルエンザワクチンの供給について
- ・ B型肝炎ワクチンの供給見込みについて（更新情報）
- ・ 次期感染症サーベイランスシステムに向けた事前準備について

<検討結果>